中央農業高校 校長室だより 特集号

― 命はぐくむ学びの風景 ―

神奈川県立中央農業高等学校　校長　岩崎秀太

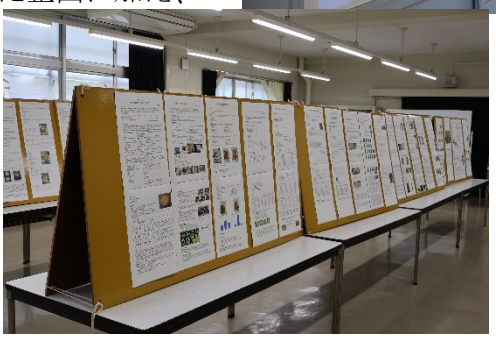
創立120周年を彩る「第62回秋輝祭」大盛況！
～「繋ぐ120年 咲き誇る私たちの現在地」～

11月7日（土）、8日（日）の２日間、本校の文化祭「第62回秋輝祭」を開催しました。今年度は創立120周年という大きな節目の年に当たり、「繋ぐ120年 咲き誇る私たちの現在地」をテーマに、生徒たちがこれまでの学習成果と創意工夫を存分に発揮した、活気あふれる文化祭となりました。



２日間で約5,000人もの皆様にご来場いただき、校内は終日、多くの来場者の笑顔と生徒たちの元気な声に包まれました。地域の皆様、保護者の皆様、卒業生の皆様をはじめ、多くの方々に本校の教育活動や生徒たちの成長した姿をご覧いただくことができました。

今年度の秋輝祭では、各クラスの趣向を凝らした企画に加え、農業高校ならではの専門性を生かした展示や販売、各部活動によるステージ発表など、多彩な催しが繰り広げられました。





各クラスの創意工夫が光る企画の数々

校舎内には、各クラスが時間をかけて準備した個性豊かな企画が並びました。お化け屋敷やゲーム、クイズ、縁日など、来場者が参加して楽しめる企画が数多く用意され、生徒たちが笑顔で呼び込みや案内を行っていました。



特に、教室全体を装飾し、独自の世界観をつくり上げた企画からは、生徒たちの発想力や表現力の豊かさが伝わってきました。企画内容を考えるところから、装飾の制作、役割分担、当日の運営に至るまで、仲間と意見を出し合いながら一つのものをつくり上げる経験は、学校生活の中でも大変貴重な学びとなったことでしょう。



また、飲食販売では、焼きうどん、焼き鳥、ポテトフライ、ワッフル、ケバブ、油そば、タピオカ、焼き肉など、多彩なメニューが用意されました。生徒たちは調理や販売、会計、接客など、それぞれの役割を責任を持って担当し、多くのお客様を迎えていました。





お客様に喜んでいただくために、商品の提供方法や接客を工夫する姿には、授業で学ぶ知識だけでは得られない実践的な学びが感じられました。

農業高校ならではの展示・販売・体験が充実！



秋輝祭の大きな特色は、農業高校ならではの専門的な学習成果を、来場者の皆様に直接紹介できることです。

各学科や農業クラブでは、日頃の授業や実習、研究活動の成果を生かした企画が展開されました。

農業クラブのプロジェクト発表や研究展示では、生徒たちが課題を発見し、仲間と協力して研究に取り組んできた成果を紹介しました。こうした活動は、本校が大切にしている「実践を通して学ぶ農業教育」の姿を伝えるものです。



また、園芸分野では、植物や花に親しむことのできる企画が設けられ、フラワーデザイン部による「花いちもんめ」など、農業高校らしい催しが企画されました。花や植物の美しさだけでなく、それらを育て、作品として表現する生徒たちの技術や感性にも触れていただく機会となりました。

さらに、農業生産物や加工品の販売も、秋輝祭ならではの魅力です。農業は、生産するだけでなく、加工し、販売し、消費者に届けるまでが一連の学びです。自分たちが学んできたことを来場者に伝え、商品を手渡す経験は、生徒たちにとって大きな自信につながったことと思います。

迫力あるステージ発表！ 部活動の魅力を発信

体育館では、２日間にわたり、和太鼓部、ダンス部、軽音楽部、吹奏楽部などによるステージ発表が行われ、秋輝祭を華やかに盛り上げました。





和太鼓部は、力強い太鼓の響きと息の合った演奏で、会場に迫力ある音を届けました。ダンス部は、リズミカルな音楽に合わせた躍動感あふれるパフォーマンスを披露しました。

軽音楽部によるバンド演奏や、吹奏楽部による演奏も、日頃の練習成果を発揮する大切な機会となりました。さらに、有志団体による発表も企画され、生徒たちの多彩な個性や特技が発揮されました。



ステージ発表は、出演する生徒だけでなく、音響や会場設営、進行など、多くの生徒や教職員の協力によって成り立っています。一つの発表を成功させるために、仲間と力を合わせることの大切さを改めて感じる機会となりました。

生徒たちの自主性と協働する力が発揮された２日間

今回の秋輝祭で、私が特にうれしく感じたのは、生徒たちが自ら考え、仲間と協力しながら、一つ一つの企画をつくり上げていたことです。

文化祭は、単に楽しい行事というだけではありません。企画を立案し、必要な材料や予算を考え、役割を分担し、準備を進め、当日は来場者に対応する。その一連の過程には、社会に出てからも必要となる多くの学びが詰まっています。

思いどおりに進まないことや、仲間との意見の違いもあったことでしょう。しかし、そうした課題を一つ一つ乗り越えながら、全員で目標に向かって取り組む経験こそが、生徒たちを大きく成長させます。

特に、来場者に対して丁寧に説明する姿や、笑顔で接客する姿、忙しい場面でも互いに助け合う姿などから、生

徒たちの責任感や思いやり、コミュニケーション能力の高まりを感じました。

本校では、農業の専門的な知識・技術の習得とともに、主体性や協働性、課題解決能力を育むことを大切にしています。今回の秋輝祭は、まさにそうした力を実践の中で発揮する機会となりました。



創立120周年の歴史と伝統を次の時代へ

今年度のテーマ「繋ぐ120年 咲き誇る私たちの現在地」には、特別な意味があります。

本校は今年、創立120周年を迎えました。明治39年の創立以来、農業教育を通して数多くの人材を育成し、地域農業や産業の発展に貢献してきました。その歴史は、先輩方の努力と、地域の皆様の温かい支えによって築かれてきたものです。



今回の秋輝祭では、伝統ある農業教育の成果と、生徒たちの新しい発想や挑戦する姿が一つになり、現在の中央農業高校の魅力を存分に発信することができました。

そして、本校は国の「ネクストハイスクール」事業の先導拠点校に採択され、新しい時代の農業教育に向けた大きな一歩を踏み出しています。

これからは、これまで培ってきた農業教育の伝統を大切にしながら、スマート農業やデジタル技術の活用、地域や企業との連携など、新たな学びにも積極的に取り組んでいきます。

今回の秋輝祭で見せてくれた生徒たちの創造力、行動力、協働する力は、これからの中央農業高校を支える大きな原動力になると確信しています。

秋輝祭のフィナーレを飾る「後輝祭」！ 体育館は熱気と歓声に包まれる！

11月８日（日）、２日間にわたる秋輝祭の一般公開が終了した後、体育館では生徒たちが楽しみにしていた「後輝祭（こうきさい）」が開催されました。



午後4時から始まった後輝祭では、有志生徒によるバンド演奏やダンス、お笑いなど、多彩なパフォーマンスが次々と披露されました。

バンド演奏では、迫力あるサウンドと熱のこもった演奏に会場が盛り上がり、ダンスでは息の合った躍動感あふれるパフォーマンスが観客を魅了しました。また、お笑いのステージでは、出演者の個性あふれる演技や軽妙なやり取りに会場から大きな笑い声が上がり、体育館は終始、歓声と笑顔に包まれました。



出演する生徒たちも、観客席から声援を送る生徒たちも、全員が一体となって楽しんでいる姿が大変印象的でした。普段の学校生活ではなかなか見ることのできない生徒たちの意外な才能や豊かな表現力に触れることができ、改めて本校生徒の持つ多彩な可能性を感じました。

後輝祭は午後６時近くまで続き、会場の盛り上がりは最後まで衰えることなく、２日間の秋輝祭を締めくくるにふさわしい、素晴らしいフィナーレとなりました。

文化祭の企画や運営に全力で取り組み、最後は仲間とともに思い切り楽しむ。そんな生徒たちの生き生きとした姿を見て、学校行事の持つ大きな教育的意義を改めて実感しました。

仲間とともにつくり上げた秋輝祭。そして、仲間とともに喜びを分かち合った後輝祭。この２日間の経験は、生徒たちにとって高校生活の忘れられない思い出となったことでしょう。

約5,000人の皆様に感謝！　心に残る秋輝祭となりました

２日間で約5,000人という多くの皆様をお迎えできたことは、本校に対する地域の皆様の関心と期待の大きさを感じる出来事でした。

文化祭は、学校と地域をつなぐ大切な行事でもあります。生徒たちが日頃学んでいることを知っていただくとともに、地域の方々との交流を通して、学校が地域社会に支えられていることを実感する機会にもなりました。

秋輝祭実行委員会や生徒会役員の皆さんは、長期間にわたり企画・準備を進め、当日の運営にも責任を持って取り組んでくれました。また、各クラスや部活動、農業クラブの生徒たちも、それぞれの持ち場で力を発揮し、秋輝祭を成功へと導いてくれました。

ご来場いただいた地域の皆様、保護者の皆様、卒業生の皆様、そして運営を支えてくださったPTAや教職員の皆様に、心より感謝申し上げます。

創立120周年という記念すべき年に、生徒たち一人ひとりが主役となり、それぞれの個性と可能性を咲かせた第62回秋輝祭。中央農業高校の歴史に、新たな輝かしい１ページを刻むことができました。


開場前は長蛇の列



「命はぐくむ」の理念のもと、生徒一人ひとりの成長を支えてまいります。
神奈川県立中央農業高等学校